

〈研究ノート〉

中国語母語話者の不満表明行為について

—社会的観点から—

羅 琳・任 星

キーワード：中国語母語話者，不満表明，社会的観点，学生，社会人

1. 先行研究と課題

「不満表明」はポライトネスの議論にもしばしば取り上げられるように、相手に何かを課することで、相手の立場を脅かす行為 (Face Threatening Acts) であり、権利や自由を侵害されたくないという Negative face を損なう恐れがある言語行動である (Brown & Levinson 1987)。人間関係を壊さずに、いかに不満表明をするかは、中国語母語話者にとって難しい課題である。社会的制約 (社会的立場や社会的距離、権利・義務関係、身分など) の中で、中国語母語話者が不満表明をする際、どのような点に配慮し、また、いかなる不満表明行為を取っているのかを明らかにする必要がある。この研究を通じて、中国人の不満表明の実態を把握するだけでなく、日本語母語話者向けの中国語教育へ少しでも役に立てればと思う。

これまでの研究 (劉 2004, 袁 2009 など) においては、その多くは不満表明の言語表現に集中し、ノンバーバルなど、不満を表明するほかの行為にはあまり触れていない。異文化交流の立場から、中国語母語話者と日本語母語話者を対象とする不満表明の日中対照研究 (崔 2009) では、言語表明ストラテジーを巡って研究を展開している。また、郭 (2008) では、不満表明ストラテジーに影響を及ぼす要因について、台湾人日本語学習者・台湾語母語話者・日本語母語話者を対象にその類似点・相違点を検討している。

2. 研究方法と調査概要

2010年12月20日から12月26日にかけて、大学院生30名 (女性30名) 及び社会人30名 (男性15名, 女性15名) を対象に、アンケート調査を行った。調査対象者は日本語学習歴のない中国語母語話者である。調査内容は、先行研究を参考に、日常生活で遭遇する可能性が高いと思われる11通りの場面 (表、調査票は中国語で表記) を設定し、社会的要素を考慮に入れ、話し手と聞き手の社会的立場、年齢及び親疎関係などの人間関係を予め統制したものである。

設問概要

- ① 当該場面に不満を感じるかどうか。
- A 感じない B 少し不満 C 不満 D とても E 腹立つほど
- ② どのような処置を取るか。
- A 沈黙して何もしない。(そうする理由は?)
- B ことばでは言わないが、何らかのサインを出す。(どのようなサイン?)
- C 直接言い出す。(どのような言語表現をするか)
- D 第三者を経由して不満の気持ちを相手に伝える。(誰を経由するか? そうする理由は?)
- E 陰で誰かに不満の気持ちを述べる。(誰に? そうする理由は?)

場面	相手との関係			状況
	社会的立場	年齢	親疎	
1	同等	同	親	友人が待ち合わせに遅れてきた。
2	同等	同	親	親しく付き合っている隣の部屋がうるさい。
3	同等	同	疎	あまり親しくない隣の部屋がうるさい。
4	同等	同	知らない人	図書館の自習室で隣の人がうるさい。
5	同等	同	知らない人	図書館の自習室で自分の席が知らない人に座られた。
6	目上	上	知らない人	バスの中でおじさんがタバコを吸っている。
7	目下	下	知らない人	公園で子供が花を摘んでいる。
8	目上	上	疎	先生が待ち合わせの事務室にいなかった。
9	目上	上	疎	社長が実現しがたい販売目標を設定した。
10	目下	下	親	新人である後輩が勤務時間に仕事以外のことをする。
11	目下	同	知らない人	レストランで一時間近く料理を待たされた。

3. 結果と考察

当該場面での、1) 各行為の全体的使用傾向、2) 各行為が社会要因による11個の場面でのそれぞれの使用傾向、3) 各場面における学生と社会人の使用傾向と差異の原因、について考察した結果、中国語母語話者は不満を感じた場合、直ちに相手に表明するという傾向が見られた。また、不満を表明する行為の選択に当たっては、不満を表明する際、「親・疎・赤の他人」という基本的な基準で表明行為を選択していることがわかった。

ところが、同じ「親」の関係であっても、親しいほど相手に対して寛容になる傾向があった。これは「甘えの原理」ではないかと考えられる。ほかに、権利・義務関係や利害関係、相手の年齢及び社会的上下関係を念頭に不満表明行為を選択する傾向も挙げられる。また、学生と社会人の各場面における使用傾向については、社会人は学生より「直接的でない行為」を好んでいることが明らかになった。社会人は学生より利害関係をもっと深く認識し、人間関係を大事にしているからであると考えられる。

参考文献

- Brown, Penelope and Steven C. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage* Cambridge: Cambridge University Press.
- 崔東花 (2009) 「不満表明とそれに対する応答—中国語母語話者と日本語話者を比較して」『多文化接触場面の言語行動と言語管理』7, 千葉大学大学院人文社会科学研究所, pp.43-63.
- 郭碧蘭 (2008) 「第二言語習得の観点から見る台湾人日本語学習者の語用論的転移—不満表明ストラテジーに影響を及ぼす要因を一例に一」『アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』香港日本語教育研究会, pp.218-226.
- 劉惠萍 (2004) 「抱怨語的語用研究」『広西社会科学』2, 広西社会科学界聯合会, pp.125-128.
- 袁週敏 (2009) 「論漢語直接抱怨語」『語言文字応用』語言文字新聞社, pp.48-59.